

平成23年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実 施 状 況 報 告 書



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

目 次

経済学部	1
人間文化学部 心理学科	3
人間文化学部 人間文化学科	4
人間文化学部 メディア情報文化学科	7
工学部 電子・ロボット工学科	8
工学部 建築・建設学科	9
工学部 情報工学科	10
工学部 機械システム工学科	11
生命工学部 生物工学科	19
生命工学部 生命栄養科学科	22
生命工学部 海洋生物科学科	24
薬学部	26

経済学部

■ 担当者氏名

(代表) 平田宏二

(担当) 鶴崎健一, 久松太郎, 古市雄一郎, 塚原一郎, 三川 敦, 吉田卓史, 岡谷良二
中村 博, 鍋島正二郎, 日野恵美子

■ はじめに

「教養ゼミ」は大学教育の入り口となる重要な科目の一つと考え、経済学部では平成 22 年度まで各教員がそれぞれの方針を持って実施してきた。実施内容・方法について、教務委員が一定の指針を示したものの、うまく運営できていたゼミと、出来ていないゼミがあり学生に戸惑いが生じるなど、必ずしも予定通りの成果が得られなかった。これらを改善すべく平成 23 年度からは学習課題や評価を統一することにした。また、必要に応じて SGD (スモール・グループ・ディスカッション) を取り入れた。

■ 実施内容

平成 23 年度の実施内容は、次のとおりである。

区 分	テーマ
第 1 回	大学生生活
第 2 回	授業の受け方・履修
第 3 回	図書館の利用
第 4 回	読み方まとめ方 1 (まず書く)
第 5 回	読み方まとめ方 2 (評価は適切?)
第 6 回	読み方まとめ方 3 (意見の統一)
第 7 回	読み方まとめ方 4 (G で発表)
第 8 回	キャリアとは
第 9 回	キャリアを考える
第 10 回	後期を始めるにあたって
第 11 回	討論 1 (議論への参加)
第 12 回	討論 2 (メンバーを変える)
第 13 回	討論 3 (発表と評価)
第 14 回	討論 4 (新しい課題)
第 15 回	2 年次に向けて

上記の他、年間 5 回の教養講座も評価の対象に加えた。

■ 教養ゼミの成果等

はじめに「大学生生活」をテーマに、講義形式で学習を進めた。授業の受け方や履修の仕方なども高校とは異なり、円滑な学生生活が送れるよう重要な事項について学習した。図書館については、今後 4 年間学生たちが学習・研究する上で絶対に欠かせないものであり、利用方法・注意点などを学生に理解させ、図書館を大いに活用するための素地を作ることができた。さらに大学生であるこの時期に最も重要なことの一つは、何といても文章理解である。このため読み方・ま

とめ方として文章理解・文章作成に力を入れた。教材を使って、文章の要約を作らせ、その要約を学生に SGD を利用して評価させた。これにより、学生相互の関係を深めるとともに、受け身で終わりがちな大学生活を能動的なものに変える効果があったと考えている。

また学生たちは、今までキャリアと向き合う機会もなく入学してくる学生が多い。キャリア教育は大学4年間をとおしておこなうもので教養ゼミではキャリアとは何か、キャリアの意義など基礎的なことについて学習した。さらに、今日の学生たちに求められるコミュニケーション能力や論理的な思考を育成するための手がかりとなるように学生主体の討論をさせた。具体的には、討論の実践、議論への参加、メンバーを入れ替えての討論、結果発表、評価などを行った。

今回、討論などを加えたことで実習的な側面が強くなったので、理由なき欠席は認めないという厳しい対応を取った。学生へは事前に連絡しており、さらに欠席者への補習も行なったが、1割近い学生が、無断欠席が理由で単位を落とすという結果となった。

ほとんどの学生が、教養ゼミの後半には主体的に議論に参加できるようになったと感じられたが、その手前の段階である「説明をしっかりと聞き、その内容を把握する」ことがままならない学生への対応の工夫が、今後、必要と思われる。

■ 今後の対応

上記の結果をもとに課題と評価をさらに明らかにして、PDCA サイクルでさらに良いゼミ運営を仕上げていきたい。

人間文化学部 心理学科

■ 担当者氏名

(代表) 山崎理央 (1年担任・取りまとめ係)

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数5, ゼミの学生数各7～9名

■ 前期実施内容 (各回の内容等)

テーマ: ピア・サポート訓練

主な内容: ピア・サポートとは/自己紹介ゲーム、自分自身について知ろう、
一方通行と双方向のコミュニケーション、傾聴について/聴き方のロールプレイ、
話し合ってみよう/大切なものランキング、ストレスへの対処、まとめ
(その他に、19号館案内、PC室案内、図書館案内を実施)

■ 前期教養ゼミの成果等

サポートのためのスキル(傾聴、コミュニケーションなど)の訓練を行なった。
学生同士の関係を築き、互いに思いやりをもって支え合う雰囲気や学生の高めていくことができた。

■ 後期実施内容

教養ゼミは前期のみ開講だが、(学年担任だけでなく)各ゼミ担当教員が後期も引き続き、自分が担当した学生との連絡や履修上の指導に関わっている。

■ 今後の課題

教養ゼミでピア・サポートを受けた学生たちが翌年度に次の1年生グループのファシリテーターになるような仕組みを考案中である。

■ 特記事項

今年度は、これまで毎回配付していたレジュメをまとめ、冊子(ピア・サポート訓練のテキスト)を作成した。今年度から、人間文化学部の3学科の新入生合宿オリエンテーションと初年次教育(教養ゼミ)でピア・サポート訓練を導入しており、テキストを使用した。来年度も継続の予定である。

人間文化学部 人間文化学科

■ 担当者氏名

青木美保

■ 教育目標および授業のねらい

学問の基礎とともに、実学的な能力や国際的な見識、創造力豊かな人間性を備えた学生の育成を目標とする学科の人材育成像に則り、教養ゼミでは、受講生たちに教員の専門等に関連した様々なテーマについて研究・討論させ、的確な判断力・行動力の向上を図ること、および、少人数での授業体制の中で、専門の内容を通して、教師と学生、学生相互の信頼関係の構築を目指している。

■ 前期実施内容（各回の内容等）

学生・教員を2グループ(教員4人ずつ、学生20人程度)に分け、それぞれのグループで教員4人が各3回程度担当してオムニバスで授業を展開する。

その最初と最後の授業は、各グループの教員全員が集まり、授業全体の目標の共有や成果についての検討を行って、授業の目標達成を徹底させている。

授業の学習成果は、「幅広い教養を修得するための基礎力(読む力・書く力)を身につけること、自ら発する問題意識とそれを解決する創造的な思考力を身につけること」である。

授業の概要は、シラバスに記す通りであるが、2グループで共通に

1回 教養ゼミとは(全教員)

2回～4回 大学での学びについての導入

4回～14回 各教員の専門を通しての導入ゼミ(各教員)

15回 充実した大学生活とは(全教員)

学生の興味・関心による主体的な問題意識の開発、それについての文献調査などの問題追究の過程の体験、調査結果をまとめる(書く)こと、それを発表すること、他者の発表を聞いてコメントすること、など2年生以降の授業に関わるプレ体験を主な内容とする。

■ 前期教養ゼミの成果

授業の方法について学科内での議論があり、今年度の達成度について独自のアンケートを実施した(添付、回答率93% 38人)。

その結果、先生との人間関係については、よくできた、まあまあできたが合わせて22人、仲間との人間関係は、よくできた、まあまあできたが合わせて29人、大学での勉学に意欲がわいたかについて、わいたが31人、教養ゼミの授業で何らかの力が身に付いたと答えた者は29人、どんな能力かを聞いたところ、発表力が5人、聞く力が9人、読む力6人、コミュニケーション力14人という結果であった。自由記述においては、「先生によって授業内容も違い、人の考え方も十人十色であることを改めて感じた。また、みんなの前で発表することで発表の仕方や注意点を自分で見つけ、自分で反省することができた。」

教養ゼミは、自分を知ると共に友人との仲も深まる授業だった。」や「色々な先生から色々なことを学べるのは楽しかったし、各先生の授業を受けるかどうかの参考になった。」といった好意的な評価がほとんどであったが、「何が目的なのか、全く分からなかった。到達点はどこで何をすればそっちに向かえるのか、せめてそれくらいは示しておいてほしかった。」という意見も一票あり、この授業の意図、学習成果を事前に学生に周知するオリエンテーションの必要性が感じられた。ただ、発表に自身が持てるようになった、もっと発表をやってみたいなどの積極的な意見が見られた。

全体として、導入教育のねらいはある程度達成されたと言える。

■ 問題点、改善策、対応策

アンケートで、教員との関係が出来ない者3名、仲間との人間関係が出来ない者2名、勉学の意欲がわかなかった者1名となっており、これら特定の学生への対応が必要である。

「教養ゼミ」の授業アンケート2011

人間文化学科教育システム導入委員会

人間文化学科では、演習授業の内容を検討しています。

2011年前期の教養ゼミの授業について、下記の質問に答えて下さい。(38名解答)

1. 先生との人間関係はできましたか。

①よくできた 3 ②まあまあできた 19 ③あまりできていない 13 ④全くできない 3

2. 1で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。具体的にこたえて下さい。

- ・先生と話しやすくなった。
 - ・様々な先生の授業を受けたことによってそれぞれの先生の雰囲気を知れたこと。
 - ・先生の人間性がわかり、話しかけやすくなった。
 - ・先生との意見交換ができた。
 - ・先生に自分の意見を伝える伝え方を知った。
 - ・積極的に話せた人と話せなかった人がいたし、先生に顔と名前を覚えてもらっているか、心配です。
- など

3. 1で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。具体的にこたえて下さい。

- ・どんな話をすればいいのかわからなかった。
- ・初対面の人と話すのは難しい。先生についていくのが難しい。
- ・スタートで失敗。
- ・普通の授業の方が人間関係が出来ると思う。

4. 仲間との人間関係はできましたか。

①よくできた 11 ②まあまあできた 18 ③あまりできていない 7 ④全くできない 2

5. 4で「できた」と答えた人は、どのようなことができるようになりましたか。具体的にこたえて下さい。

- ・相手の事を知る機会があった。
 - ・1つの目標を達成するためにいろんな場面で協力してきたので信頼関係ができた。
 - ・仲間だからって遠慮せずに意見を言い合えた。
 - ・共感や反感など色々あったが、それをどのように解決し、つきあっていくかという方法
 - ・話し合いの時に声を掛け合うこと。
 - ・わからないこと、同じ興味のあるものなど話し合い、信頼関係を築けた。
 - ・常に一緒に行動する人達ができる。
 - ・名前や趣味などがわかった。
- など

6. 4で「できない」と答えた人は、どのようなことが難しかったですか。具体的にこたえて下さい。

- ・授業がすんだら解散の状態はどう交流すればよいのか。
- ・コミュニケーションをとるのが難しい。
- ・あまり会話が出来ず、グループのお荷物感がぬぐえなかった。
- ・頭の中で話がまとまらず、話せなかった。
- ・スタートで失敗。

7. 教養ゼミを受けて、大学での勉学に意欲がわきましたか。

①強くわいた 4 ②まあまあわいた 27 ③あまりわかない 6 ④全くわかない 1

8. 教養ゼミの授業で、大学内でのマナー(あいさつ、礼儀等)が身に付きましたか。

①よく身に付いた 10 ②まあまあ付いた 18 ③あまり付かない 8 ④全く付かない 2

9. 教養ゼミの授業で何らかの力が身に付きましたか。

①よくついた 1 ②まあまあついた 28 ③あまりついていない 8 ④全くついていない 0

10. 9の質問に「身に付いた」と答えた人について聞きます。どのような力が身に付いたと感じていますか。

①発表する力 5 ②話を聞く力 9 ③読む力 6 ④コミュニケーション力 14
⑤その他() 0回答 11

11. 「教養ゼミ」について、自由に感想を述べて下さい。

- ・何が目的なのか、全く分からなかった。到達点はどこで何をすればそっちに向かえるのか、せめてそれくらいは示しておいてほしかった。
 - ・ゼミはいいとして、教養講座を成績に入れるのはどうか、それに興味のない人を講座に招いてしまい(ってそれをカバーするための人数稼ぎに使われているのなら)、それに伴ってマナーの低下などにつながるのでは？人数稼ぎにしても、質が下がる気がする。
 - ・班行動は、班全体の空気に左右される。ある程度個人でもやりやすい作業を組み込むことも考えてほしい。
 - ・最初は面倒くさかったが、先生によって楽しかったり、難しかったりで差は激しいが、楽しく終わった。
 - ・先生によって授業内容も違い、人の考え方も十人十色であることを改めて感じた。また、みんなの前で発表することで発表の仕方や注意点を自分で見つけ、自分で反省することができた。教養ゼミは、自分を知ると共に友人との仲も深まる授業だった。
 - ・色々な先生から色々なことを学べるのは楽しかったし、各先生の授業を受けるかどうかの参考になった。
 - ・多様な話、授業に参加が出来て良い経験になった。
 - ・楽しいのと面倒なのとつまらないのとの差が激しいと思う。
 - ・もっといろんなことがやりたかった。
 - ・こういった授業は面白いと感じたから、またしてみたい。
 - ・実際の社会の人の声が聞けたのは良かった。
 - ・人前で話すことが苦手なので、この授業を受けて少しは良かった。コミュニケーション力がついた。
 - ・少人数の授業だったので、受けやすく、毎時間楽しかった。
 - ・先生が変わる授業はなかったので、授業がそれぞれ違ってとても面白かった。
 - ・グループ分けのバランスが悪かった、授業のテンポも少し詰まって感じられた。
 - ・学科の親睦を深めるのに役立った。
 - ・入学したばかりのころはあまり知らない人が多いので、こういう授業で少しでも友人は作れるし、自分も何人かできたので、このような授業は良いと思う。
 - ・同じ学科の人間でも時間割が全く違う人もいるので、そういう人たちと顔を合わせるいい機会になった。
 - ・仲間・先生との関係が作れ、おぼえたり、大学はこういうところだということを知るいい機会になった。
 - ・色々な人の意見が聞けて良かった。
 - ・自分の考えたことや分かったことを伝えたいように、その上短い文章で伝わるようにするのが難しい。
- など

人間文化学部 メディア情報文化学科

■ 担当者氏名

(代表) 渡辺浩司

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：3（一年次担任；田中、杉本、内垣戸）

■ 前期実施内容

シラバスから実施順の入れ替え、一部内容の変更はあったもののおおそ予定通り実施された。

・1回：教務委員によるガイダンス

・2～5回：担任による少人数ゼミ

仲間作りのための『ピア・サポート』プログラム（心理学科作成の資料）を中心に実施

・6～11回：社会系、コミュニケーション系、情報系教員による全体講演会

・12～15回：担任による少人数ゼミ

■ 前期教養ゼミの成果等

ゼミのねらいである、受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、メディアや情報に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。さらにゼミを少人数編成で行った結果、「仲間作り」という点においても非常に有効であったと思われる。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

後期は学科の専門科目である基礎演習などで引き続き初年次導入教育およびスキル教育を実施していく予定である。

今年度の問題点としては、仲間作りには利点であった少人数編成であるが、大人数の前でのプレゼンテーションや、グループディスカッションなどの実施は困難であり、これらは学科全体でまとまって実施したほうがより効果的であったと考えられる。この点については来年度以降の検討課題としたい。

工学部 電子・ロボット工学科

■ 担当者氏名

(代表：伍賀正典)

安藤詔生，栗延俊太郎，三宅雅保，三谷康夫，田中 聡，香川直己，沖 俊任，伍賀正典

■ 実施内容（全15回）

- 1 回目（4/13）概要説明、自己紹介
- 2 回目（4/20）授業の受け方、ノートの取り方
- 3 回目（4/27）資料整理の方法、図書館訪問
- 4～6 回目（5/11、5/18、5/25）小グループゼミ
- 7～14 回目（6/1、6/8、6/15、6/22、6/29、7/6、7/13、7/20）ロボット競技会企画
- 15 回目（7/27）定期試験対策

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2 回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3 回目では資料整理の方法を指導し、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から7つの小グループを作った。この小グループでゼミを行い数学基礎の学力底上げを行い、比較的学力のある学生には「ものづくり」の実習を行った
- 7～14 回目まで、学生を2グループに分けてミニロボットコンテストの企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。事後にはレポート作成も行った。
- 15 回目では自己管理の練習として定期試験対策を行った。各自学習の進捗状況に対して自己分析を行い、定期試験終了までのカレンダーを作成して具体的になすべき事項や時期などの整理を行った。
- ロボット競技会企画の課題では計算機室を用いた。このグループでの作業は学生間の交流を深め、その後の学科でのイベントに参加する学生チームが育つ契機となった。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

本年度から5回の教養講座が教養ゼミの一部として扱われたが、内容が工学部学生向きでないものの反応は芳しくなかった。反面、第5回教養講座の宇宙探査機「はやぶさ」に関する講演は学生には好評であり、同様の技術者開発者の講演を望む声が聞かれた。

工学部 建築・建設学科

■ 担当者氏名

大島秀明

■ 前期実施内容（各回の内容等）

23 年度の初年次教育として、前期に「建築学概論」、後期に「教養ゼミ」を実施し、建築に対する興味を引出し、勉学意欲を促す目的で行っている。「建築学概論」では、各教員がそれぞれの専門分野をもとに建築の入門的な講義を行い、各授業毎にレポートを作成させ提出させた。

「教養ゼミ」では、少人数指導を原則に各教員研究室へのゼミ配属を行い、なるべく学生に意見を言わせたり、討論形式を採用するなど、学生の意欲を引き出すことを目的に、以下の実施スケジュールにて行った。

- | | |
|--------------|---|
| 第 1 回 (9/27) | ・ ガイダンス、配属ゼミ説明 (1 年担任) |
| 第 2 回～第 6 回 | ・ 各ゼミに配属し、以下の共通のテーマによるゼミ指導
①『大学学びのことはじめ』を用いた授業
②建築物リサーチ演習課題（各自作成）
自分の身近な建築物を見学調査し、A2 版ケント紙 1 枚にまとめてプレゼンテーションする。
建物外観、内観写真、建物概要、自分の意見感想等を盛り込む。 |
| 第 7 回～第 14 回 | ③各ゼミによる独自テーマの研究レポートを作成し発表会に向けた作業を行う。 |
| 第 15 回 | ④各ゼミごとにパワーポイントによる発表会
(発表 5 分、質疑 3 分) |

■ 教養ゼミの評価

「建築学概論」は、提出されたレポートを、授業担当の各教員が「文字数」、「表現」、「熱心度」、「態度」の 4 項目について 5 段階評価を行い、それらを総合して最終評価を行った。各学生の初期値としての意欲、興味や学習態度、文章表現力などを把握することができた。「教養ゼミ」は、学生各個人で行う「建築物リサーチ演習課題」と、ゼミ所属学生の共同作業としての「各ゼミ独自テーマの研究レポート」の 2 課題を行い、最後に発表会を行った。学生は、テーマに対する興味と理解を深め、チームによる共同作業、チーム内での役割、発表のまとめ方、発表の仕方などを学習した。

■ 今後の課題

前期の「建築学概論」の評価データを、後期の授業や学生指導に活かせるかが今後の課題となる。後期の「教養ゼミ」では、各ゼミ単位で実施したが、各ゼミの温度差やゼミ間の交流が今後の検討課題である。

工学部 情報工学科

■ 担当者氏名

(代表) 占部逸正

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数： 1 学生数： 38名

■ 前期実施内容（各回の内容等）

- (1) 教科書「大学学びのことはじめ」に従い14回行った。
自己紹介、カリキュラムの理解とシラバスの確認、図書館の利用案内、大学祭への取り組み、ノートの取り方、文章の要約と作文、口頭発表、マナー、手紙の作成、クリーンアップ（清掃活動）、履歴書の作成
- (2) 新入生と教職員と会食会を行い、授業や生活についての懇談を行った。
新しいことが学べることへの期待が表れている半面、授業時間が長いこと内容が難しいこと、また休憩時間が10分では移動が困難なことなどについて意見交換を行った。
- (3) 5回実施された教養講座への出席。
第1回目は90%の出席率であったが、2回目以降は63%、55%、46%、75%と変化した。

■ 前期教養ゼミの成果等

授業の受け方や口頭発表など大学生として身につけるべき基本的な事項を習得できた。また、マナーや礼儀といった社会生活の基本や、清掃活動を通して環境問題への意識を持つことができた。更に、懇談会では新入生が入学後暫くして抱える諸問題を共有することができた。教養講座では、専門を離れて、広い視野から社会の在り方や学問の面白さに接する機会を持つことができた。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

昨年に引き続き、推奨教科書「大学学びのことはじめ」に従って行ったが、少人数のゼミ形式では実施されていない。活発な意見交換を意図したが、集団に加われない学生も少なからずいた。教科書の内容は非常に基本的で重要であるので前項で述べたように成果はあがっている。ただし、「教養ゼミ」という名称とは合致していない。来年度は、少人数のゼミ討論形式の取り入れを検討している。情報工学科の授業としての教養ゼミは前期のみなので、後期は教養ゼミとしては実施していないが、教養講座および大学祭などの課外授業を通して、初年時教育を続けた。

■ その他

昨年度の報告でも述べたが、すべての学部・学科が推奨の教科書を使用しているわけではなく、教養ゼミの内容は学部・学科によって異なっている。教養ゼミを福山大学の特徴としてアピールするためには、教科書に従うなどして、実施項目についてはある程度統一したほうが良いと考える。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

野西利次

■ ゼミ数とゼミの学生数

3名

■ 実施内容（各回の内容等）

- 第1回 基礎力養成ゼミの説明および自己紹介
- 第2回 大学での学習方法、レポート作成方法
- 第3回 SPIの問題を解く（数学分野基礎）
- 第4回 SPIの問題を解く（数学分野応用）
- 第5回 SPIの問題を解く（数学分野まとめ）
- 第6回 SPIの問題を解く（理科分野基礎）
- 第7回 SPIの問題を解く（理科分野応用）
- 第8回 SPIの問題を解く（理科分野まとめ）
- 第9回 SPIの問題を解く（国語分野）
- 第10回 一般常識問題を解く（時事・文化）
- 第11回 一般常識問題を解く（法律・経済）
- 第12回 一般常識問題を解く（歴史・地理）
- 第13回 一般常識問題を解く（数学）
- 第14回 一般常識問題を解く（理科）
- 第15回 まとめ

■ 教養ゼミの成果等

- ・大学のシステム等の説明を最初に行ったが、少人数であるため十分理解させることができた。
- ・SPI、一般常識問題の演習を行った。初めは解答に時間を要したが、演習を繰り返すうちに要領を掴み、解答時間が短縮し、正答率も高くなった。僅かであるが基礎学力を向上させることができたと思う。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

今回使用したSPIや一般常識問題は、学生にとって、多少レベルの高い問題であったので、次年度は問題の選択に注意したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

鶴崎 展

■ ゼミ数とゼミの学生数

4名

■ 実施内容（各回の内容等）

- 第1回 ゼミ内容の説明、取り組み方の説明
- 第2回 EXCELの基本操作（計算式と表作成1）
- 第3回 EXCELの基本操作（計算式と表作成2）
- 第4回 EXCELの基本操作（計算結果のグラフ化の方法）
- 第5回 EXCELの基本操作（数学曲線のグラフ化1）
- 第6回 EXCELの基本操作（数学曲線のグラフ化2）
- 第7回 物理現象を解く（物体の放物線運動、軌跡の計算法）
- 第8回 物理現象を解く（物体の放物線運動、軌跡を計算する）
- 第9回 パワーポイント資料作成（物体の放物線運動の軌跡）
- 第10回 パワーポイントによる発表、発表方法を個別指導・改善
- 第11回 パワーポイントによる発表、発表方法を個別指導・改善
- 第12回 物理現象を解く（流体中での物体の落下運動、微分方程式の数値解法）
- 第13回 物理現象を解く（流体中での物体の落下運動の計算）
- 第14回 パワーポイント資料作成（流体中での物体の落下運動）
- 第15回 総括

■ 教養ゼミの成果等

学生達は設定された問題に対して、それを解くためのプロセスを学び、自分自身で考えて結果を出すことが出来た。またその過程で「知識、技能、態度」を、ある程度身につけることが出来たと思う。最終回に提出させた「感想文」からもそのことがうかがえる。ただ、その後の授業が一方通行的であれば、ゼミの成果は薄れていく懸念がある。そのため、私の授業においては、出来る限り双方向型の授業（学生からの解答を求め、それに対してコメントするなど）となるよう努力し、自立的に学ぶ姿勢が身に付くよう配慮している。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

特に問題点はないが、やはり学生間の能力差があり、ゼミを同時進行することは容易ではない。従って、「何がどこまで出来るようになったか」を指針として、個人の能力に応じてゴール（達成度）を定めて、今後は進めて行きたいと考えている。全員が、同じゴールに同時に到達する必要は必ずしもないと思う。「態度」を学ばせることを重視したい。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

布施守雄

■ ゼミ数とゼミの学生数

4名

■ 実施内容（各回の内容等）

- | | |
|---------------------------------------|------------------|
| 1) 自己紹介の仕方（テキスト ^(※1) 使用） | (※1) 大学 学びのことはじめ |
| 2) ゼミの友達を知ろう（テキスト ^(※1) 使用） | 佐藤 智明 他 編 |
| 3) 先輩との懇談（布施研究室の4年生と懇談） | |
| 4) 図書館の使い方（図書館員から説明を受けた） | |
| 5) 伝える力を培う（テキスト ^(※2) 使用） | (※2) 伝える力 |
| 6) 文章力をアップする（テキスト ^(※2) 使用） | 池上 彰 著 |
| 7) わかりやすく伝える（テキスト ^(※2) 使用） | |
| 8) 自分のアピールポイントをまとめて文書化する | |
| 9) 各々のアピールポイントを公表して批評し合う | |
| 10) ～ 13) | |
| 自動車コンポーネントの歴史を調べて、レポートに文書化する | |
| 14) 各自のレポートを発表して批評し合う | |

■ 教養ゼミの成果等

- ・前半は大学生活に慣れるため茶話会的な形で進めて交流を図ったので、ゼミ仲間同士が比較的仲の良い友達となった。
- ・中盤にコミュニケーション力を養うために、テレビ等で人気の池上彰氏の著書を用いて話を進めたので、レポートの発表などにその効果があった

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

- ・基本的には、今年のやり方を踏襲したい。
しかし、レポートにまとめるテーマについては、自動車に限らず広い分野を対象にすることも考える。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋圭司

■ ゼミ数とゼミの学生数

3名

■ 実施内容（各回の内容等）

1. はじめに
2. 自己紹介など
3. 大学生活
4. グラフを書く
5. 図書館見学
6. 速度と速度
7. 微分とは
8. 公式を覚えよう
9. 問題を解き、解き方を説明する
10. 応用問題を解き、解き方を説明する
11. 試験問題解説
12. エクセルでグラフ（2次曲線）
13. "（複雑な関数）
14. "（物理の問題）
15. まとめ

■ 教養ゼミの成果等

大学生活へ慣れるということには効果があったと思う。お互いに親しく話すことができた。今年の配属生は数学が苦手な学生が多かったが、数学の基礎的部分の復習などに役立ったと思う。このゼミのメンバーは全員、数学Ⅰ（必修）の単位は取得できた。プレゼンテーションという意味で解き方を説明させたが、学生同士でコミュニケーションもとれ、緊張もせずに発表できた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

数学問題を解くのは、各自で努力したが、コンピュータを使ったエクセルの表計算やグラフについては、あまり興味を示さなかった。次年度はその改善を考える。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口勝次

■ ゼミ数とゼミの学生数

3名

■ 実施内容（各回の内容等）

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 自己紹介シートの作成, ビデオ鑑賞（エンジン関係）
- 第3回 口頭での自己紹介, ビデオ鑑賞（映像機器関係）
- 第4回 相談支援と課外活動について, ビデオ鑑賞（建築関係）
- 第5回 スタディスキルズ（受講の心得とノートの取り方）
- 第6回 探究テーマの設定と整理のポイント
- 第7回 情報収集
- 第8回 情報整理
- 第9回 情報分析
- 第10回 レポート作成と中間発表の準備
- 第11回 中間発表と SGD
- 第12回 プレゼンテーション技法, スライド構成立案
- 第13回 スライド作成
- 第14回 発表準備
- 第15回 プレゼンテーションと相互評価

※平成23年度生のみ, 教養講座を出席（出席票の提出）する。

■ 教養ゼミの成果等

- (1) 技術関係のビデオ鑑賞は, 大学での学びのモチベーション向上に効果があったと思われる。
- (2) 探究テーマに関連する話題提供が, 個人テーマの探究心向上に役立てることができた。
- (3) 授業の最初に具体的なかつ適切な到達目標を明確にすることによって, 学生の集中した良い学習態度が持続的に得られた。
- (4) 中間発表の設定によって, 内容の整理を促進した。
- (5) プレゼンテーション技法の基本に留意して探究テーマの成果発表を行った。
- (6) プレゼンテーションについて学生による相互評価も行うことで自己評価を促した。

■ 問題点, 改善策, 次年度での対応策

- (1) 自己紹介シートの作成から自己紹介の口頭発表の流れを考える場合, これらの内容をできるだけ同日に行えるように, 授業内容の構成や時間配分を改善する。
- (2) SGD については, 学生数が著しく少ないので活発な議論には至らなかった。
- (3) 総じてプレゼンテーション原稿のまとまりにやや欠けていたので, スライド作成時に, 原稿の思案・工夫のための時間をもう少し与える必要がある。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村純壮

■ ゼミ数とゼミの学生数

3名

■ 実施内容（各回の内容等）

1. ガイダンス，顔合せ，挨拶，自己紹介
2. スピーチについて
3. 学習方法，受講の心得，授業の心構え，授業の聞き方，ノートの取り方
4. 時事問題，課題調査
5. 時事問題調査発表，大学生活の目標
6. 進路選択，就職，将来の希望・仕事，機械技術者の仕事・求人・資格
7. 就職活動，入社試験・採用試験，SPI適性検査（理科・物理関係）演習
8. 高校生活と変わったところ
9. プレゼンテーションとディスカッション，物理の課題調査
10. 物理の課題調査プレゼンテーション，ディスカッション
11. ブーメランの原理説明，メールによる課題レポート提出の説明
12. メールによる課題レポート提出
13. メールによる課題レポート 添削，修正，レポート再提出
14. 将来計画について
15. 将来計画のプレゼンテーション，感想発表

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として，大学生活への適応，基礎力の育成を目標に，柔軟な話題を取り扱った。どの話題も，今後の大学生活に必要性が高く，役立つと思われる。学生も，ほぼ全員，積極的に，関心を持って取り組んだ。学生全員が発表と質問を実施することにより，授業参加を促進し，意識向上の効果があつた。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

情報リテラシー教育を増加したり，図書館利用などの話題を取り入れる。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林正明

■ ゼミ数とゼミの学生数

4名

■ 実施内容（各回の内容等）

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテーション方法などを学習した。

- 1) 導入説明
- 2) モノづくりに必要なことは
- 3) 紙トンボの製作1（検討）
- 4) 紙トンボの製作2（製作）
- 5) 紙トンボの製作3（発表・レポート作成）
- 6) 紙からくりの製作1（検討）
- 7) 紙からくりの製作2（製作）
- 8) 紙からくりの製作3（製作）
- 9) 紙からくりの製作4（発表・レポート作成）
- 10) ペーパーパラシュートの製作1（検討）
- 11) ペーパーパラシュートの製作2（製作）
- 12) ペーパーパラシュートの製作3（発表・レポート提出）
- 13) 折り紙ヒコーキの製作1（検討・製作）
- 14) 折り紙ヒコーキの製作2（発表・レポート提出）
- 15) まとめ

■ 教養ゼミの成果等

平成23年度は簡単な教材を用いたモノづくりを題材にモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生はモノづくりの大切さやレポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習することができた。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

各テーマの製作時間が少し長かったため取り組みの姿勢に差が出てしまった。次年度は製作に要する時間を短くし取り組み姿勢に差が出ないようにする。

工学部 機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東 潤

■ ゼミ数とゼミの学生数

3名

■ 実施内容（各回の内容等）

- 【第1回】 オリエンテーション、自己紹介の方法
- 【第2回】 シラバスの見方、資格の種類と取得方法、図書館の使いこなし方
- 【第3回】 課外活動について
- 【第4回】 キャリアデザインについて
- 【第5回】 リサーチの方法について
- 【第6回】 口頭発表準備（リサーチ）
- 【第7回】 口頭発表準備（資料作成）
- 【第8回】 プレゼンテーション（テーマ：学生がだまされる危険について）、反省会
- 【第9回】 大学生がだまされる危険について
- 【第10回】 口頭発表準備（リサーチ）
- 【第11回】 口頭発表準備（資料作成）
- 【第12回】 口頭発表準備（資料作成）
- 【第13回】 プレゼンテーション（テーマ：スポーツと新素材）、反省会
- 【第14回】 スポーツと新素材（テニス、ゴルフ、魚釣り）紹介及び討論
- 【第15回】 スポーツと新素材（サッカーシューズ）紹介及び討論、まとめ

■ 教養ゼミの成果等

第15回に教養ゼミを通じて得られたこと等を受講生に書いてもらった。

主な感想は以下の通りである。

- ・ ノートの取り方を学ぶことができた。
- ・ 悪質商法の手口や対応策を学ぶことができた。
- ・ 履歴書の書き方を学ぶことができて良かった。
- ・ 課外活動に参加したくなった。
- ・ レポートの作成方法がわかった。

総括すると、学生（新入生）に大学での学び方やマナー、キャリアデザイン、悪質商法の対応等について知ってもらうことができたのではないかと考えている。

■ 問題点、改善策、次年度での対応策

今回の受講生は悪質商法の対応策（クーリングオフなど）を全く知らなかったなので、来年度は少し詳しく取り上げたいと考えている。

生命工学部 生物工学科

■ 担当者氏名

原口博行

■ 生物工学科教育プログラムに置ける教養ゼミの位置付け

生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに生命科学に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに初年次教育に求められている大学生生活への円滑な導入、および大学での学び方、教員や友人との信頼関係の構築にも役立つ内容を実施している。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

本学では教養ゼミを前期2単位の講義科目として15回実施しているが、本学科では演習科目として捉えて、通年30回実施している。実施回数のゆとりを活用して、随時他科目の補講にも利用することを可としている。

■ 実施内容

回	実施日	内 容
第1回	平成23年4月13日	【福山大学の理解・・・本学の沿革と理念】 大学組織・大学というものは、これまでの高等学校や中学校とはその組織が大いに異なる。大学生活に関する解説。本学開学の経緯と今日までの沿革、本学科開設から現在に至るまでの変遷について説明し、本学学生としての誇りと自覚を促す。
第2回	平成23年4月20日	【福山大学の理解・・・教養ゼミ・ガイダンス】 教養とは何かについて説明し、カリキュラムの中での教養ゼミの目的について説明
第3回	平成23年4月27日	【体験学習・・・巨大かぼちゃ大会】 巨大カボチャ（アトランティックジャイアント）を栽培し、その大きさを競うコンテストが世界的に話題になっている。大きさの世界記録に挑戦することを目標として、グループで畑地の整備し栽培を開始した。栽培管理を各グループが随時継続。
第4回	平成23年5月11日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「勉強カラオケ理論」（読み物）を読んで討論 話題2「四字熟語と人生観」（フリートーキング） 話題3「日本の祝日について起源や変遷」{連休明けのため}
第5回	平成23年5月18日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 「人気企業・新入社員のアピール・上司が求めるもの（新聞記事）」をもとに人材形成や将来について

第6回	平成23年5月25日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「英語の公用語化、是か非か」 話題2「言語と国家・文化」 話題3「大震災からの復興」（識者による新聞論説）を読んで。
第7回	平成23年6月1日	【体験学習・・・巨大かぼちゃ大会】 バイオフィーム・巨大カボチャ栽培の草刈
第8回	平成23年6月8日	【福山大学の理解・・・福山大学の歌】 三蔵五訓を解説し、みんなで唱和。続いて福山大学の歌をCDで聞き、歌詞を解説。みんなで合唱。
第9回	平成23年6月15日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「面白さを作り出すのは自分である」 話題2「今、専念していることは」
第10回	平成23年6月22日	【教養を広げる・・・講義とディスカッション】 話題1「日本の大学の起源」（講義） 話題2「教養のある専門家」と「専門性のある教養人」
第11回	平成23年6月29日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 三蔵祭の説明とアロマキャンドル作り
第12回	平成23年6月29日	【教養講座】 原子力エネルギーの利用と災害対応
第13回	平成23年7月6日	【体験学習・・・アズキ大会】 バイオフィームでアズキ栽培の開始
第14回	平成23年7月12日	【教養講座】 映画～ビジネスと芸術と文化
第15回	平成23年7月13日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「パクス・ヤポニカの軌跡」（読み物）を読んで討論 話題2「日本の節句」（七夕を終えて）
第16回	平成23年7月20日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「危機にたつ日本」（読み物）を読んで討論 話題2「同音異義語」「みる」を漢字で書けば「見る」、「観る」、「視る」などがあり、「きく」を漢字で書けば・・・、このような例を出しあい違いを説明しあう。
第17回	平成23年7月27日	【福山大学の理解・・・大学生活を半年終えて】 前期試験・夏季休暇における注意事項
第18回	平成23年9月21日	【福山大学の理解・・・後期開始にあたり教務関係・学生関係ガイダンス】 後期教養ゼミのスケジュールについて
第19回	平成23年9月28日	【体験学習・・・巨大かぼちゃ大会】 巨大かぼちゃの収穫
第20回	平成23年10月5日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭での各ブースの担当者を決める。
第21回	平成23年10月7日	【教養講座】 アジアの時代と日中関係
第22回	平成23年10月12日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題1「地理・歴史、高校教育の困難」（読み物）を読んで討論 話題2「大学、秋入学」（新聞解説）を読んで討論
第23回	平成23年10月19日	【福山大学になじむ・・・みんなで大学祭】 大学祭会場設営。ポスター作り

第 24 回	平成 23 年 10 月 26 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 アンケート及び討論「日本のここがおかしい」
第 25 回	平成 23 年 11 月 2 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 1 「日本の産業構造、TPP の是非」(読み物)を読んで討論 話題 2 「若者の現実と未来」(読み物)を読んで討論
第 26 回	平成 23 年 11 月 9 日	【補習時間】 化学実験の実習試験
第 27 回	平成 23 年 11 月 16 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 1 「日本のここがおかしい」 話題 2 「日本の存在を高める戦略を持って」(新聞社説)を読んで討論
第 28 回	平成 23 年 11 月 30 日	【教養を広げる・・・ディスカッション】 話題 「今年の 10 大ニュースを選び」
第 29 回	平成 23 年 12 月 7 日	【体験学習・・・焼きイモ大会】 話題 1 「大学生の学び」(読み物)を読んで討論 体験 1 バイオファームで収穫したサツマイモを焼き芋に
第 30 回	平成 23 年 12 月 14 日	【学習の振り返り】 今年〇〇をした、などとフリートーキング
第 31 回	平成 24 年 1 月 11 日	【学習意欲の喚起】 新年の抱負を述べよう 正月休みは〇〇をしました。
第 32 回	平成 24 年 1 月 18 日	【福山大学の理解・・・学科カリキュラムの理解】 2 年次生以降の本学科のカリキュラムや実験、行事などについて説明。
第 33 回	平成 24 年 1 月 25 日	【福山大学の理解・・・大学とは】 改めて高等学校や中学校とはその組織が大いに異なる大学生活に関する解説。 本学開学の理念と今日までの歴史、本学科開設から現在に至るまでの変遷について説明し、大学で己のとるべきスタンスを築く一つのきっかけを与える。 後期試験・春季休暇における注意事項
第 34 回	平成 24 年 1 月 30 日	【教養講座】 「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行 その 7 年間の歩み

■ 評価について

提出されたレポートを担当または教養ゼミ担当教員が点検・評価。態度(出席状況と学習姿勢)を総合的に評価した。その結果概ねの学生が 80 点以上の評価となった。レポート等提出物は学生に返却済み。

■ 次年度への課題

- (1) 今年より教養講座を教養ゼミの一環として実施するようになったが、教養ゼミの中での位置付けが曖昧なものとなった。次年度からは、教養講座の内容をディスカッションの題材として取り上げることにより、教養講座と教養ゼミをリンクさせたい。
- (2) 福山大学教育システムを周知徹底して、本学での学び方を全学生に理解を促す努力が必要。

生命工学部 生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表) 井ノ内直良

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数： 7 ゼミの学生数： 5～6名

■ 前期実施内容（各回の内容等）

全体ガイダンス2回、少人数班別ゼミナールを5～6回、野菜栽培実習を行った。ゼミナールは本質的に各担当者の実施計画で行った。各ゼミとも1回目に自己紹介、マナー教育など、2回目、3回目に図書館の見学と利用法の習得について行い、4回目以降は各ゼミにて実験、演習、テーマ討論、一般のコミュニケーションなど様々なものとなった。野菜栽培実習では調理で使う食材作りと栽培の注意点について学んだ。共同作業することによりコミュニケーション力や協調性を養った。

<前期日程>

4月13日(水)	4時限	全体ガイダンス 1: 講義での学習法、教養ゼミの内容説明など(井ノ内、倉掛)
	5時限	野菜栽培実習: スイカの苗の植付け(菊田)
4月20日(水)	4時限	教養ゼミナール第1回: 食品科学と生命栄養科学科(里内、山本、井ノ内、倉掛)
4月27日(水)	4時限	教養ゼミナール第2回: 公衆栄養学と生命栄養科学科(木村)
5月11日(水)	4時限	班別教養ゼミナール第1回: 図書館の見学と利用法の習得
5月25日(水)	4時限	班別教養ゼミナール第2回: 図書館の見学と利用法の習得
6月 1日(水)	4時限	教養ゼミナール第3回: 臨床栄養学と生命栄養科学科(渡邊)
6月 8日(水)	4時限	班別教養ゼミナール第3回(担当: 洲上、里内、岩本、菊田、平松、木村、村上)
6月15日(水)	4時限	教養ゼミナール第6回: 調理科学と生命栄養科学科(洲上、石井)
6月22日(水)	4時限	班別教養ゼミナール第4回(担当: 洲上、里内、岩本、菊田、平松、木村、村上)
6月29日(水)	4時限	教養ゼミナール第7回: 生化学と生命栄養科学科(岩本、菊田)
7月 6日(水)	4時限	班別教養ゼミナール第5回(担当: 洲上、里内、岩本、菊田、平松、木村、村上)
7月13日(水)	4時限	教養ゼミナール第8回: 応用栄養学と生命栄養科学科(平松、村上)
7月20日(水)	4時限	班別教養ゼミナール第6回(担当: 洲上、里内、岩本、菊田、平松、木村、村上)
7月27日(水)	4時限	全体ガイダンス 2: アンケート、夏休みの課題など(井ノ内、倉掛)

■ 前期教養ゼミの成果等

- ・ 少人数による班別教養ゼミナールでは学生と教員、学生同士で親密なコミュニケーションをとることができた。
- ・ 学生各人の考え、大学での勉強の不安などについて知ることができた。
- ・ 「〇〇と生命栄養科学科」という教養ゼミナールでは、各教員がそれぞれ担当する専門科目がどのように本学科で重要であり、社会に出てからも役立つ学問であるかを入学まもない学生に講義することで、勉学意欲向上に繋がった。
- ・ 挨拶などのマナーが身に付いた。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

- ・ 問題点としては、前期ということもあり、コミュニケーション、マナー、学生相談などが中心となり、学習スキルである作文、テーマ発表、テーマ討論などにあまり時間が取れなかった。
- ・ そこで前期の改善策のひとつとして、作文に関しては読書感想文の提出を夏休みの課題とした。
- ・ 大学での講義や勉強法がわからなく不安になる学生が多いようであったので、補習や勉強方法に関するスキルの習得が必要であることがわかった。
- ・ 同一の教育内容を各担当者が足並み揃えて行うのは困難のようであり、ある程度の自由度が必要かと思われる。
- ・ 学生の評価法についての検討が必要である。
- ・ 年々多様な入学生の割合が増えているので、基礎学力向上の学習プログラムの実施が急務と考えられる。

後期には、ゼミナール、野菜実習に加え大学祭の計画、準備、実施が加わる。少人数班別ゼミナールは新たに班分けして5回行う。教員も全員が担当できるように振り分ける。

■ 後期実施内容（各回の内容等）

全体ガイダンス2回、少人数班別ゼミナールを5回、野菜栽培実習を行った。班別ゼミナールは、本質的には各担当者の実施計画で行った。各ゼミとも実験、演習、テーマ討論、一般のコミュニケーションなど様々なものとなった。野菜栽培実習ではトマトの栽培法について学んだ。共同作業することによりコミュニケーション力や協調性を養った。

<後期日程>

- 9月21日（水）4時限 全体ガイダンス1：後期の教養ゼミの日程や内容の説明、
大学祭に関する概要説明、夏休みの課題（読書感想文）の回収など
- 9月28日（水）4時限 教養ゼミナール第1回：トマト栽培に関する説明と温室での栽培実習
- 10月3日（月）～10月21日（金）の期間中の空き時間 大学祭の学科紹介の準備
(主に展示や試食品などの準備)
- 10月22日（土）～10月23日（日） 大学祭での学科紹介
(ただし、各学生は10月3日～23日の大学祭の準備と学科紹介に参加する期間に、
教養ゼミの実地訓練的な活動として、7～8回分に相当する演習を充分に行った。)
- 10月26日（水）4時限 班別教養ゼミナール第1回（渡邊、山本、井ノ内、倉掛、石崎、石井）
- 11月 2日（水）4時限 班別教養ゼミナール第2回（渡邊、山本、井ノ内、倉掛、石崎、石井）
- 11月 9日（水）4時限 班別教養ゼミナール第3回（渡邊、山本、井ノ内、倉掛、石崎、石井）
- 11月16日（水）4時限 班別教養ゼミナール第4回（渡邊、山本、井ノ内、倉掛、石崎、石井）
- 11月30日（水）4時限 班別教養ゼミナール第5回（渡邊、山本、井ノ内、倉掛、石崎、石井）
- 12月 7日（水）4時限 全体ガイダンス2：アンケート、冬休みの課題など

■ 後期教養ゼミの成果等

少人数班別ゼミナールでは学生と教員、学生同士でコミュニケーションをさらにとることができた。

- ・ 前期に引き続き、学生各人の考え、大学での勉強の不安などについて知ることができた。
- ・ テーマ学習については自主的に質問する学生もみられた。
- ・ 大学祭の運営を通して、挨拶などのマナーがさらに身に付いた。

■ 問題点、改善策、後期での対応策

後期には、班別ゼミナール、トマト栽培実習に加え大学祭の計画、準備、実施が加わった。少人数班別ゼミナールは新たに班分けして5回行った。教員も全員が担当できるように振り分けた。1年間を通して、教養ゼミの目的はかなり達成できたと思われる。来年度以降、基礎学力の向上プログラムの実施などが検討課題と考えられる。

生命工学部 海洋生物科学科

■ 担当者氏名

(代表) 三輪泰彦

■ ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：11 ゼミの学生数：7-8名

■ 前期実施内容（各回の内容等）

- 1) 全体ガイダンス：教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験等の補足説明
- 2) 自己紹介（自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成、）
- 3) 図書館の利用法
- 4) 個人面談-学生生活、欠席調査など
- 4) スポーツ大会（新入生歓迎ソフトボール大会）
- 5) 大学祭の展示企画-1 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画-2 テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
- 7) 大学祭の展示企画- テーマの決定-全員でディスカッション
- 8) 大学祭の展示企画- 大学祭の物品リストの作成- テーマごとにディスカッション
- 9) 定期試験への心構え
- 10) 水族館見学事前学習
- 11) 水族館見学（宮島水族館）
- 12) 水族館見学レポートの作成

■ 後期実施内容（各回の内容等）

- 1) 個人面談（前期成績のチェックや学生生活など）
- 2) 大学祭の計画-工程表の作成
- 3) 大学祭の準備-1 ポスター、看板、展示物の作成等
- 4) 大学祭の準備-2 水槽のセットアップ、海洋生物の採集、金魚の飼育、展示物の作成等
- 5) 大学祭の準備-3 会場の設営、展示物の備え付け等
- 6) 大学祭- 来場者への対応
- 7) 大学祭- かたづけ
- 8) 個人面談-欠席調査など
- 9) 大学祭の反省会
- 10) 定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

- (1) 少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- (2) 学生生活や教務（履修方法、欠席調査、定期試験への対応など）についてサポートすることができた。
- (3) プロダクトとして大学祭の展示企画（3つのテーマ、展示内容、必要物品等）についてま

とめることができた。テーマ：１）貝殻でキャンドル作り体験・２）金魚すくい・３）タッチングプール。

- (4) 大学祭を通じて学生同士の団結力を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。
- (5) 大学祭の来場者への対応を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、ほかの人により良くわかってもらうためには、わかってもらうこと、伝えたいことを整理し、相手に示す資料をしっかりと準備することが必要であることを学ぶことができた。
- (6) 大学祭を十分にエンジョイしてもらった。
- (7) 学生一人１人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点をそれぞれ、まとめてもらった。
- (8) 平成 22 年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。
- (9) リニューアルした宮島水族館のバックヤード（飼育員しか入ることができない裏側）を見学し、水族館を維持するためのシステム、海水および淡水の生き物を飼育するための様々な工夫や装置などを学ぶことができた。将来、水族館で飼育員として働きたい学生の目標ができ、アクアリウム科学コースに関係する授業科目に対する学習意欲が高まることが期待される。

■ 問題点、改善策、対応策

- (1) 少人数体制（7-8 名）指導しているが、１グループあたり１人の教員が担当しているせいか、目の行き届かない学生も出てくる場合がある。
- (2) 教養ゼミが時間割の都合で５時限に開講しているが、１～４時限の授業を受けている学生にとっては疲れがでてきて、集中力を維持するのが難しい。
- (3) 教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では月一金の午後から学生実験が組み込まれているため教員によっては一部スケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島から本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
- (4) 周りの学生とうまく打ち解けることができない学生への対応が難しい。
- (5) 学生数が非常に多いので全体で展示企画について仕事を進めていくのが難しいと感じた。今年度は積極的に取り組む学生をリーダーとして数名選抜し、その運営に指導能力を発揮してもらった。
- (6) 大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員に所属しており、執行部の仕事に専念してもらった。
- (7) 大学祭やスモールグループディスカッションにおいて積極的に参加できなかった学生がいたので、取り組むことができる環境づくり（目標をしっかりと理解してもらう、学生の意見や考えを出しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど）を引き続き行っていきたい。
- (8) 昨年と同様に、学生からのアンケート調査を行い、改善点を次年度にフィードバックできるようにしたい。
- (9) 今年度は大学祭で３年生による３つの専門コースの展示とジョイントしたが、１年次と３年次の学生間の交流がほとんどみられなかった。今後は、コミュニケーションを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。

薬 学 部

■ 担当者氏名

(代表) 岡村信幸

(担当) 岡村信幸, 井上裕文, 田淵紀彦 (薬学入門担当)

大橋一慶, 杉原成美, 五郎丸剛, 町支臣成, 田淵紀彦 (クラス担任)

■ ゼミ数とゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

2-1 薬学入門Ⅰ (担当責任者: 岡村信幸)

毎週、クラス単位でスモールグループディスカッション (SGD) を行い、薬学入門担当教員 (3名) ならびにクラス担任 (5~6名) がチューターとして指導を行った。

※日程・方略は別紙参照

2-2 教養講座 (担当責任者: 大橋一慶)

教養講座 (5回) を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・ 学生-教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・ 薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・ 情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・ 能動学習のための動機づけ
- ・ 問題解決能力の向上
- ・ 挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点, 改善策等

学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。

薬学入門前期（平成23年度）																				
4 月					5 月					6 月					7 月					
							3	4	5			3	4	5			3	4	5	
					2	日				1	水				1	金				
		3	4	5		月				2	木				2	土				
3					3	火				3	金				3	日				
4					4	水				4	土				4	月				
5	火				5	木				5	日				5	火				
6	水				6	金				6	月				6	水				
7	木				7	土				7	火				7	木				
8	金				8	日				8	水				8	金				
9	土				9	月				9	木				9	土				
10	日				10	火				10	金				10	日				
11	月				11	水				11	土				11	月				
12	火				12	木				12	日				12	火				
13	水				13	金				13	月				13	水				
14	木				14	土				14	火				14	木				
15	金				15	日				15	水				15	金				
16	土				16	月				16	木				16	土				
17	日				17	火				17	金				17	日				
18	月				18	水				18	土				18	月				
19	火				19	木				19	日				19	火				
20	水				20	金				20	月				20	水				
21	木				21	土				21	火				21	木				
22	金				22	日				22	水				22	金				
23	土				23	月				23	木				23	土				
24	日				24	火				24	金				24	日				
25	月				25	水				25	土				25	月				
26	火				26	木				26	日				26	火				
27	水				27	金				27	月				27	水				
28	木				28	土				28	火				28	木				
29	金				29	日				29	水									
30	土				30	月				30	木									
					31	火														

薬学入門前期方略（平成23年度）									
方略	到達目標	日	細目		学習内容	場所	人的資源	時間 (分)	備考
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。	4/11～4/13 ※詳細は 日程表参照	1-1	講義	1. 薬学入門について(約15分) 2. SGDについて 3. KJ法について	プレナリー セッション室 34203	岡村・田村 (担任)	45	資料配付
	1-2		SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」を 抽出(KJ法)	SGD室	担任	15	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタック シールに書き出す	
	1-3		SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」の 島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作 成する	
	1-4		SGD	今日からできること(今後の行動目標)		担任	30	資料配布:課題(2)	
	1-5		発表	発表・討議(各5分)	プレナリー セッション室 34203	担任	40		
2	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4/18～4/20 ※詳細は 日程表参照	2A-1	SGD	「社会で活躍する薬学出身者の役割 (卒後の進路と仕事内容)」 について抽出(ブレインストーミング)	SGD室	担任	15	カードに意見を書いてグル ープ内で発表
	2A-2		SGD	「社会で活躍する薬学出身者の役割」につい てマインドマップの作成	担任		40	模造紙にマップを作成	
	2A-3		発表	発表・討議(各5分)	プレナリー セッション室 34203	担任	40	発表:模造紙	
	2A-4		調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室 図書館	担任	60	図書館の書籍を利用して 調査	
	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について 討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを 討議し、概説できる。	4/25～4/27 ※詳細は 日程表参照	2B-1	SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 について抽出(KJ法)	SGD室	担任	15	意見をタックシールに書き 出す
			2B-2	SGD	「人にやさしい薬・良い薬(薬の種類や分類)」 の島とタイトルを作成する(KJ法)		担任	40	模造紙に島とタイトルを作 成する
			2A-3	発表	発表・討議(各5分)	プレナリー セッション室 34203	担任	40	発表:模造紙
			2A-4	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室 図書館	担任	60	図書館の書籍を利用して 調査

2	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。 【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	5/9～5/11 ※詳細は 日程表参照	2C-1	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の役割（仕事内容と係り合い）」について抽出（ブレインストーミング）	SGD室	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表	
			2C-2	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の役割」についてイメージマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成	
			2A-3	発表	発表・討議（各5分）	プレナリーセッション室 34203	担任	40	発表：模造紙	
			2A-4	調査SGD	疑問点についての調査とまとめ	SGD室 図書館	担任	60	図書館の書籍を利用して調査	
			2C-5	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ	SGD室	担任	20	ホワイトボードに意見を書き出す	
3	【ヒューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする。	5月14日（土） 1～2時限	5	講義	1. キャリアデザイン ～幸せな人生～ 2. 感じるココロと伝えるスキル ～患者さんやご家族と薬剤師の関係～	研修室	菅（担任）	180		
4	【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。 2. 見学施設におけるマナーならびに注意点を討議する。	5/16～5/18 ※詳細は 日程表参照	自己学習		調査課題：見学施設への質問内容や専門用語について					
			4A-1	調査SGD	質問内容についてまとめ、発表準備	SGD室	担任	40	テキスト ホワイトボードにまとめる	
			4A-2	発表	発表（5分）・討議（10分）	プレナリーセッション室 34203	担任	60	発表：ホワイトボード	
			4A-3	SGD	見学施設への質問内容を再討議 質問票の作成	SGD室	担任	60	テキスト、ノートPC 質問票の雛形配付 自己紹介票配付 USBメモリー持参	
			4A-4	SGD	見学施設におけるマナーならびに注意点を討議する。	SGD室	担任	20	ホワイトボードに意見を書き出す	
5	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月21日（土） 1～2時限	5	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室	石原（担任）	180	レポート提出	
6	【事前学習】 1. 見学施設におけるマナーならびに注意点を討議する。 2. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに質問内容について討議する。	5/23～5/25 ※詳細は 日程表参照	自己学習		調査課題：見学マナーや見学施設までの交通手段 ※交通手段は公共交通機関に限る 自己紹介票の作成					
			6C-1	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について討議	SGD室	担任	30	ホワイトボードにまとめる	
			6C-2	発表	発表（3分）・討議（5分）	プレナリーセッション室 34203	担任	40	発表：ホワイトボード	
			6C-3	DVD	早期体験学習に関する注意事項		岡村（担任）	40		
			6C-4	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方を再討議	SGD室	担任	20		
			自己紹介票の提出		質問票・自己紹介票を担任に提出 ※締切5/30		※担任は質問票と自己紹介票を6/3までに施設へFAX			
			5/30～6/3		事前連絡		見学施設（指導薬剤師）へ連絡し、事前に訪問時間等を調整			
7	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を見聞し、その重要性について意見をまとめ、発表する。	6/13～7/6 ※詳細は 日程表参照	7A	見学	体験学習	病院	指導薬剤師	60～240		
					薬局	60～240				
		自己学習			討議・まとめ・発表準備					
		7/11～7/13	7B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	SGD室	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収	
		7月16日（土） 1～2時限	7C	発表	発表・討議（各5分）	※1	担任	180	クラス別公開発表会（施設単位）	
※1： P1クラス：34203プレナリーセッション室 P2クラス：34218プレナリーセッション室 P3クラス：34216研修室										

大 学 教 育 セ ン タ ー